

平成 25 年 3 月 26 日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

APC (Article Processing Charge) の機関負担モデル実証のための パイロットプロジェクト実施に係る検討について (案)

1. 目的

オープンアクセス誌の急速な普及に伴い、APC (Article Processing Charge) の機関負担モデルを実施または検討する出版社が徐々に増えており、海外では既に実施例も存在する。一方、日本の大学等においては機関内の APC 支払い状況も十分に把握できておらず、機関負担に対応できる状況ではない。世界的に APC 機関負担モデルが加速すれば、日本が大幅に立ち後れてしまうことも懸念される。

そうしたことから、具体的な提案が可能な出版社を対象にしたパイロットプロジェクトを実施することで、APC の機関負担がもたらすオープンアクセス化推進への効果等を測定し、APC 機関負担モデルの妥当性等を検証・評価する。

2. 平成 25 年度の検討実施案

(1) 実態調査

①海外の動向調査

COPE (Compact for Open-Access Publishing Equity) など、海外において APC 機関負担モデルを既に実施している先行事例を調査する。

②国内のオープンアクセス投稿実態調査

オープンアクセス誌への投稿実態などを調査し、APC 機関負担モデルの可能性を探る。また、日本で APC 機関負担モデルのプロジェクトを実施した場合に、実施前後のオープンアクセス誌への投稿実態を定量的に把握し、その効果について評価を行えるように基礎情報を得る。

→ これらの調査のために、大学図書館・研究者と NII で協力体制を構築する。なお、大学に関しては国公立の設置母体や、規模等のバランスを配慮した上で、当面は 10 大学程度に協力を要請する。

③APC 機関負担モデルの動向調査

APC 機関負担モデルを採っている BioMed Central (BMC), Oxford University Press(OUP) 等のオープンアクセス誌について、負担モデルの詳細を調査する。

(2) パイロットプロジェクトの実施可能性の検討

①BioMed Central の提案の検討

BMC からは、NII および JUSTICE に対して、APC の機関ディスカウントモデル (BioMed Central および Springer Open について、APC をまとめて支払い、Supporter Membership 年会費の割引を受けるモデル) について既に提案の意向が示されている。

②BioMed Central 以外の提案の検討

BMC 以外のオープンアクセス誌についても、提案可能性の有無を調査検討する。

③パイロットプロジェクト実施の検討

上記①、②の調査・検討の結果、実施可能な提案が存在する場合には、(1) の②の協力大学を対象として、APC 機関負担モデルのパイロットプロジェクトを実施する。